

第1回「新かがわ多文化共生推進プラン(改)(仮称)」策定委員会議事録

日時

令和 8 年 7 月 14 日(火)14:00～15:45

場所

香川国際交流会館 中 2 階交流談話室

出席者

委員

香川県中小企業団体中央会事務局長	朝國 和樹
公益財団法人国際人材協力機構高松駐在事務所長	田井 慎二
香川県警察本部警務部警務課企画室長	竹内 亮介
香川県連合自治会課長	谷本 善睦
丸亀市立城乾小学校校長	鎮山 超史
社会保険労務士	西山 路恵
仏生山国際交流会代表兼事務局長	野郷 光宏
学校法人穴吹学園専門学校穴吹 IT ビジネスカレッジ 第2教務部部長	畑 ゆかり
翻訳家	平野 キャサリン
高松市創造都市推進局 文化・観光・スポーツ部 観光交流課 都市交流室室長	牧野 小織
公益財団法人香川県国際交流協会専務理事	吉田 典子
国立大学法人香川大学副学長	和田 健司

事務局職員

知事公室長	植松 和弘
総務部知事公室国際課課長	土居 義昌
総務部知事公室国際課課長補佐	藤川 幸治
総務部知事公室国際課主任	尾崎 朋代
総務部知事公室国際課主事	高橋 さくら
商工労働部労働政策課主幹	常金 志信
健康福祉部こども家庭課課長補佐	須藤 江利子
健康福祉部こども家庭課主任	高橋 おしえ
教育委員会義務教育課課長補佐	植田 浩之
教育委員会義務教育課主任指導主事	高木 佐和

内容

1 開会

定刻となり会議を開始。

事務局より配付資料の確認および植松知事公室長による挨拶が行われた。

2 設置要綱の確認

事務局より【資料1】「新かがわ多文化共生推進プラン(改)(仮称)」策定委員会 設置要綱に基づき、本委員会の設置目的(外国人住民にも住みやすく魅力ある香川県とするための指針となる計画の策定に関し意見を求めること)について説明した。

3 委員会の公開・非公開の決定

【資料2】「審議会等の会議の公開に関する指針」に基づき、会議の公開・非公開の取扱いについて説明及び協議を行った。新たに設置される審議会等の場合、初回の決定権限は知事にあり、次回以降の取扱いは初回の会議において決定することとされている。これに基づき、本委員会の趣旨や目的に照らし、第1回(本日)については知事により「公開」と決定された旨を報告した。これを受け、第2回以降の会議についても、原則としてすべて「公開」とすること、その公開方法については【資料3】傍聴要領のとおり行うことを説明し、了承された。

4 会長選出及び職務代理者の指名

「新かがわ多文化共生推進プラン(改)(仮称)」策定委員会設置要綱第3条第1項の規定に則り、委員の互選による会長の選出を行った。田井委員から推薦のあった和田委員(香川大学)が出席委員全員の同意(拍手)を得て、会長に就任した。また、設置要綱第3条第3項の規定に則り、和田会長より吉田委員(香川県国際交流協会)が職務代理者(会長代理)に指名され、了承された。

5 委員自己紹介及び各専門分野における課題共有

各委員から自己紹介を兼ね、専門的な立場から香川県における多文化共生の現状や課題について意見交換が行われた。

【主な意見・課題要旨】

* 産業・労働：深刻な人手不足の中、外国人材に頼る企業も増えている。新制度導入に伴う都市部への流出懸念に対し、住みやすく選ばれる環境整備、留学生の地元就職への結びつき、企業の受入体制や在留資格(入管法)上の制限への理解促進が必要である。

* 教育・学校：外国にルーツを持つ子どもが急増する中、学校現場における日本語指導やコミュニケーション支援など、適切な教育機会の確保が課題。将来の孤立を防ぎ、高校進学や就労へと繋げる中長期的なキャリア支援が強く求められている。

* 地域社会・コミュニティ：生活者の増加に伴い、言葉の壁や情報不足から外国人住民が地域で孤立するケースへの対策が求められる。企業と連携した地域活動などを通じて顔の見える関係を築くとともに、日頃接点を持たない「無関心層」へのアプローチを含め、相互理解を促す日本人向けの意識啓発が必要である。

* 防災・安全・ルール：共同生活におけるトラブル回避のため、ゴミ出しや交通ルールなどの周知徹底が

必要である。また、県警等における通訳確保(特に希少言語)などの体制整備を進めるとともに、警察等と連携した防災・防犯教室を重ねるなど、安全確保の取り組みを広げていく必要がある。

6 議題(1)～(3)

事務局より配付資料に沿って説明を行い、審議した。

(1)議題1:策定の背景(資料4、5)

- プランの位置付け:国の「育成就労制度」創設等の大きな法制度・情勢変化、及び「次期県総合計画」の始動(令和9年度～)に合わせ、本プランを改定。
- 期間・スケジュール:対象期間は令和9年度から令和12年度の4年間。今年度中に計3回の策定委員会を経てプランを策定。

(2)議題2:香川県の現状と各種アンケートの結果(資料6～9)

- 外国人住民の推移:県内の外国人住民数は過去最高(約2.2万人、県人口の約2.4%)。技能実習・特定技能が過半数を占めるが、「家族滞在」等も増加し、生活者としての「定住化」が進んでいる。
- 課題分析:各種アンケートより、言語の壁(特に「読む・書く」)、ルールやマナー違反(ゴミ出し、騒音等)への苦情、災害時の不安(約81%が不安あり)、相談窓口の周知不足(利用していない、または知らない層が約47%)などの課題が浮き彫りとなった。また、日本人住民との「日常の交流の有無」が外国人に対する印象(好感度)に直結している実態が確認された。

(3)議題3:プランの全体構成(案)及び骨子(案)(資料10、11)

- 「労働における支援」の独立化:「働き手」としての外国人比率の高さや、新制度導入を背景とした今後の定着化を見据え、労働環境適正化やキャリア支援を明確に位置づける。
- 重点化ポイント:①コミュニケーション支援、②生活支援(「教育機会の確保」及び「防犯・交通安全対策」を追加重点化)、③防災面における支援(災害弱者を出さない対策)、④意識啓発と社会参画支援、の4点を強化する案を諮った。

【主な意見交換・質疑応答】

大項目「労働における支援」の構成・順番について(吉田委員、事務局):

- 質問(吉田委員):労働における支援を大項目として独立させる趣旨は理解する。しかし、個々の住民への支援(生活支援など)の並びの中で、労働支援を「生活支援」と「防災支援」の間ではなく、「防災支援」の後に配置した意図を伺いたい。
- 回答(事務局):現時点での配置は暫定的なものであり、正式に確定したものではない。今後、全体の体系を検討する中で整理していく。

教育・防犯の追加重点化の背景について(吉田委員、事務局):

- 質問(吉田委員):骨子案において「教育機会の確保」と「防犯・交通安全対策の推進」が追加で重点化された背景を伺いたい。
- 回答(事務局):制度改正に伴う家族帯同の増加を見据え、言葉の壁から学校生活でドロップアウトし孤立する子どもを出さないための指導・学習支援(教育)や、地域住民が安心して共に暮らすための事故・犯罪防止(防犯・交通安全)が極めて重要となるため、今回重点化することとした。これに対

し、吉田委員より、親の都合で来日し教育機会の確保に苦慮している子どもたちの実態を踏まえ、重点化の判断を評価する旨の発言があった。

民間団体等との連携サポートについて(和田会長、事務局)：

- 提言(和田会長)：行政がカバーしきれない領域を多くの民間団体が支えている。こうした関係機関との連携や情報交換をしっかりとサポートし、地域全体で漏れのない体制を作る必要がある。
- 回答(事務局)：指摘のとおりであり、行政だけでは進められないため、地域住民や民間団体と連携した具体的な内容をプランに落とし込んでいきたい。

「グローバル化」の文言削除及び「感染症対策」の分類について(野郷委員、事務局、公室長)：

- 質問(野郷委員)：総務省指針にある「グローバル化への対応」の文言を県が削除した意図を伺いたい。また、「感染症流行時における対応」が生活支援ではなく「防災」に配置されている点に違和感がある。
- 回答(事務局)：「グローバル化」はすでに日常に根付いている前提のため文言を整理した。また「感染症」は大規模パンデミックによる社会危機を想定して「防災(緊急時対応)」の枠に含めていたが、分かりにくさもあるため、表現や配置について一度持ち帰って再検討する。

「防災」の独立した位置づけについて(野郷委員、事務局、公室長、和田会長)：

- 意見(野郷委員)：防災は独立させず、生活支援の中に一体的にまとめても良いのではないか。
- 回答(事務局・公室長)：本県における南海トラフ地震対策は最優先課題。言葉や情報の壁により「災害弱者」となり命を落とすことがないよう、県の姿勢としてトーンを弱めることなく、独立した項目として強く発信したい。
- 意見(和田会長)：アンケート結果でも約 8 割の外国人が災害への不安を示しており、災害時こそ多文化共生が機能するかどうかの決定的な局面に当たる。独立した項目として位置づける意図というのは理解できる。

骨子案の承認：上記の方向性をもって、事務局提案の骨子案が拍手多数により了承された。

7 今後の会の進め方について

事務局と和田会長より、限られた会議時間内で初めて見る資料に対してその場で発言することは難しく、委員の意見が十分に計画に反映されなくなる懸念への配慮として、今後は、質問や提言をあらかじめメール等で募り、次の会議で論議するという提案がなされ、了承された。

8 閉会

次回(第2回委員会)は 11 月頃の開催を予定。今回の議論および事前に募る意見を反映した「プランの素案」を審議することを確認し、閉会した。